

令和6年度 広島県立農業技術大学校評価シート(関係者評価)

評価基準(達成度)

A	90%以上の達成
B	75～89%の達成
C	60～74%の達成
D	45～59%の達成
E	45%未満の達成

重点目標	1 定員の確保 4 カリキュラムの改善	2 進路指導の充実 5 職員のスキルアップ	3 学生の学力・資質の向上
------	------------------------	--------------------------	---------------

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
1	定員の確保	・定員の充足率は、専修学校化以前(H17～H21 平均定員 50 名/1 学年)は 42%。 専修学校化後(直近 10 年 H27～R06 平均 定員 40 名/1 学年)は 66.3%となっている。 ・近年の入学者数 R02 28 名 R03 27 名 R04 18 名 R05 25 名 R06 29 名 ・農業高校からの進学者は 43.8%(R02～R06)。 R02 43% R03 41% R04 50% R05 40% R06 45% R02～R06 は実数で 11 名/年。	農業高校との連携	1 県内の農業高校6校との連携した取組について農業教育連絡協議会で協議する。それぞれの高校単独での体験学習を提案、実施する。 2 農業高校との授業交流により大学校の認知度を向上する。	1 農大の理解度向上 ・農業連絡協議会 WG 会議で提案、実施校 2校 2 参加校、参加回数の向上【農業高校→農大】 ・卒業論文公開発表会 参加農業高校 5校	1 農大の理解向上 今年度、農業教育連絡会議 WG は開催されなかった。高校単独での学校訪問実施は、1 校(油木高校1年) 2 参加校、参加回数の向上【農業高校→農大】 ・卒業論文公開発表会 参加農業高校 4校(庄原実業、西条農業、世羅、沼南) リモート開催について、昨年まで現地参加が難しかった沼南高校に打診した。現地参加となり、リモートは実施しなかった。	D	校長参加の農業教育連絡協議会で高校単独の学校訪問について PR する。	農業教育連絡協議会で学習プログラムを議論する必要がある。
			高校訪問	3 県内高校への訪問を早期に行い、大学校について、進路担当教諭の理解を深める。	3 高校訪問数 ・学生募集 148 校 ・高校ガイダンス参加 10 校	3 高校訪問数 ・学生募集 149 校 今年度も農業技術課の協力を得て、オープンキャンパス前までに実施した。 ・高校ガイダンス参加 12 校延べ 14 回(庄原実業、油木、吉田、沼南、世羅、上下、加計芸北分校、黒瀬、安芸南、河内、瀬戸田、大竹) ・就農応援フェア出展 2 回 ・会場形式進学相談会 1 回	A	ほとんどの受験生はオープンキャンパスなどに参加しているので、高校訪問を通じ、興味のある生徒に先生から紹介してもらえるよう働きかける。 引き続き、高校ガイダンスに積極的に参加する。	重要なところへは、進路指導の先生にアポとりして訪問してはどうか。 「つなぐ大地の絆」の活躍する卒業生の動画を使って PR してもよいのではないか。
			情報の発信	4 ホームページ等の積極的な更新に努めるとともに、適時に大学校を紹介する。	4 ホームページ等の積極的情報更新 農大ニュース 20 件 農大 SNS 120 件	4 ホームページ等の積極的情報更新 ・農大ニュース 15 件 ・農大 SNS 161 件(2/28 現在) ・投稿する記事は、毎月開催している教務会議において、農大ニュースは教育計画書掲載の主要行事から、農大 SNS は月別教育計画を元に検討し、計画的な更新に努めた。 ・「農大 SNS のアカウント分析」をテーマに調査研究を実施。Instagram をプロアカウントに変更し、アカウント分析を行った。	A	新入生に対し、SNS 記事提出方法を周知し、継続的に記事を投稿していく。	農大の HP、SNS ともによく情報発信できている。学生に対しての SNS リテラシーの教育も必要。
				5 オープンキャンパスのPRに努め、参加者数を増やす。	5 オープンキャンパス ・開催回数 2 回 ・参加者数 50 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100% 学校見学会 ・開催回数 1 回 ・参加者数 20 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100%	5 オープンキャンパス ・開催回数 2 回 ・参加者数 49 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100% 学校見学会 ・開催回数 1 回 ・参加者数 8 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100%	B	高校教員からオープンキャンパスを紹介してもらえるよう高校訪問時に働きかける。学校見学会は、高校等へのメールやチラシの郵送、ホームページ等を通じて行ったが、参加者数は目標を下回った。来年度は高校への郵送数を増やすなど、高校で周知してもらえるよう働きかける。	今年度の卒業生は県外出身者が多かった。入学に至った経緯の分析をすること。 学校見学会の参加者数を増やす方法を検討すること。

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
2	進路指導の充実	<p>・農家出身の学生は入学生の中で33%（農家比率：親族に農業者を持つ者）であるが、経営基盤が十分でなく、卒業後すぐの自営就農率は卒業生のうち7%である。（過去3年平均）</p> <p>・農業法人等への就職就農は62%であり、一定の雇用の受け皿になっている。自営就農・研修を含めた就農率は81%に達した。（過去3年平均）</p> <p>・県農林水産局の関係各課とともに就農就職促進会議を組織し、各行事等を通じて学生の進路決定支援や情報提供を受けている。</p> <p>・進路の方向が定まらず、決定が遅れる学生が見られる。</p>	進路別対応の実施	1 就農就職促進会議で関係機関と連携を進めながら、農業法人、農業関連企業のガイダンスを開催し、学生の意識を高める。	1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催 ・ガイダンス開催数 2回 ・ガイダンス参加企業数 20社（2回延べ数） ・行事を通じた採用内定者数 4名	1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催 ・ガイダンス開催数 2回 ・ガイダンス参加企業数 16社 ・行事を通じた採用内定者数 4名	B	ガイダンスは、学生が農業経営体を知る重要な機会となっていることから、短期インターンシップの取組と合わせ1年生のガイダンス参加を継続する。 また、関係機関と協力し、ガイダンス参加企業の増加を図る。	参加企業には、勤務労働条件含めて説明いただくよう働きかけること。
			進路の方向決定早期化	2 就農先として捉えた農家体験学習先を選定する。	2 就職希望農業法人等での研修 参加学生数 10名 就農学生数 5名	2 就職希望農業法人等での研修 参加学生数 5名 就農学生数 4名	B	体験学習がインターンシップとしての役割を果たしており効果が大い。体験学習先の選定にあたっては、専攻職員と連携を図りながら取り組む。	
			3 個別面談を実施し、進路意向を把握するとともに、進路の早期決定への意識付けを図る。それぞれの学生に対し、個別の支援を継続的に行う。	3 個別面談 ・進路希望調査 各学年2回 ・一斉面談 各学年2回 ・採用試験エントリー支援 面接指導 30%（2年生のうち指導した学生割合） 履歴書支援 70%（同上） ・個別のキャリアカウンセリングの実施 100%（同上） ・就農率 69% ・進路決定率 100%	3 個別面談 ・進路希望調査 各学年2回 ・一斉面談 2年生2回、1年生1回 ・採用試験エントリー支援 面接指導 39%（2年生のうち指導した学生割合） 履歴書支援 65%（同上） ・個別のキャリアカウンセリングの実施 100%（同上） ・就農率 57% ・進路決定率 100%	B	進路決定ゼミや短期インターンシップにより、1年次から卒業後の進路について考えるよう意識付けする。 キャリア指導班担当職員による進路面談において丁寧に意向確認し、本人希望を尊重した進路指導を実施する。		

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
3	学生の学力・資質の向上	<p>・資格取得へ向けたゼミを学生の希望による選択制で実施している。</p> <p>・進路先が求めている能力に対して、学生それぞれがレベルアップしていくことが求められている。</p> <p>・学生間の学力の差が大きく、主体的・意欲的に学習に取り組む学生がいる一方で、実習に必要な基礎的な計算力が不足している学生もいる。</p> <p>・生活態度は全体的に良くなっているが、細かい点の改善が必要である。</p>	資格取得の促進	1 学生のニーズに対応したゼミの開催により、資格取得を支援する。	<p>1 各資格の取得目標(過去3年間の合格率の平均)</p> <p>大型特殊免許 95%</p> <p>けん引免許 91%</p> <p>フォークリフト技能講習 100%</p> <p>危険物取扱者(乙4) 29%</p> <p>毒物劇物取扱者 18%</p> <p>小型車両系特別教育 100%</p> <p>ガス溶接技能講習 100%</p> <p>アーク溶接特別教育 100%</p> <p>農業機械士 86%</p> <p>日本農業技術検定2級 25%</p> <p>農業簿記検定3級 20%</p> <p>家畜商講習(本年度対象外)ー園芸装飾3級 44%</p> <p>家畜人工授精師 78%</p>	<p>1 各資格取得実績</p> <p>大型特殊免許 96%</p> <p>けん引免許 82%</p> <p>フォークリフト技能講習 100%</p> <p>危険物取扱者(乙4) 7%</p> <p>毒物劇物取扱者 10%</p> <p>小型車両系特別教育 100%</p> <p>ガス溶接技能講習 100%</p> <p>アーク溶接特別教育 100%</p> <p>農業機械士 63%</p> <p>日本農業技術検定2級 43%</p> <p>農業簿記検定3級 31%</p> <p>園芸装飾3級 100%</p> <p>家畜人工授精師 89%</p> <p>・農業簿記検定3級の合格率が10%から31%に向上した。2級にも1名合格した。講義「農業簿記基礎」に教職員も参加し、導入部分の意識づけを外部講師とともに行った。</p>	C	<p>農業簿記検定など筆記の資格について、取得意義と目的を明確にし、対策を行い、合格率の向上を目指す。</p> <p>集落法人ではドローンの活用が進んでいる。就職するにはドローンに関する資格取得が有利に働くのではないかと。中山間地ではわな猟免許も必要となる。時代に応じて取得する免許も検討していくべき。</p> <p>農業簿記は、資格取得だけでなく、意義や目的を学生にしっかり伝えること。</p>	
			主体性・規律性の向上	2 学生が学習に意欲を持って取り組めるようカリキュラムを進める。	2 単位取得率 96.9%(過去3年平均)	2 単位取得率 96.6%	A	1年生については、令和6年度の成績をもとに農力獲得チャートを作成し、新年度の個別面談により、2年時の学習意欲向上につなげる。	
			3 生活指導監と連携した指導により、学生の主体的な取組を促す。	3 寮生活の改善状況	3 寮生活での改善状況	A	寮での共同生活を通じ、社会人として必要な常識を身に付けるため、生活指導監と先生方の連携を意識して指導にあたる。		
				<p>・生活指導監による生活指導と職員による指導を共有する</p> <p>・寮委員の主体的な活動による毎月曜フロア掃除、毎日の玄関・風呂掃除の確実な実施 実施率 100%</p> <p>(当番表の作成と当番交替の調整)</p> <p>・寮委員会の開催数 2回(生活指導監、寮役員、職員との意見交換の場を設ける)</p>	<p>・男子寮の生活委員を2名としたことで、掃除当番表の作成、当番交代の調整が円滑に行われた。</p> <p>玄関・風呂掃除の確実な実施 実施率 100%</p> <p>・寮委員会の開催数 2回</p> <p>寮委員会を数年ぶりに開催することができた。寮役員からの提案で、寮生アンケートが行われ、その結果をもとに、寮生活の改善を図った。</p>	<p>寮での共同生活を通じ、社会人として必要な常識を身に付けるため、生活指導監と先生方の連携を意識して指導にあたる。</p> <p>引き続き、寮役員の定期的な話し合いを促す。</p>	寮から通学への切り替えが途中でできるようにすること → 通学への切り替えは可能です。		

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
4	カリキュラムの改善	<p>・平成 28 年度から、独立就農を希望する学生を支援する農業経営体で長期研修を行う就農実践専攻を設置し、就農を促進する。</p> <p>・令和元年度から、実際の経営を想定し、経営・労務管理の感覚を養うことを目的とした模擬経営実習を取り入れた。</p> <p>・学生が自ら目的・意思をもって学習する探究型学習を一部講義に取り入れている。</p> <p>・令和3年から、スマート農業機器の導入や通信機器の整備を行っている。</p>	新たな専攻等設置と新カリキュラムの策定	1 就農実践専攻の円滑な運営	1 就農実践専攻学生の確保 1年生 1名	1 就農実践専攻学生の確保 1年生 選択者なし	D	就農就職促進会議などと連携し、新たな魅力的な受入経営体を探索・確保する。 「農大の将来的な姿の検討」を始める。	
				2 模擬経営実習の円滑な運営	2 模擬経営実習学生の確保 1年生 1名	2 模擬経営実習学生の確保 1年生 選択者なし	D	社会人経験など就農意欲と能力の高い学生対象に、経営計画作成の事前説明なども併せて実施する。 「農大の将来的な姿の検討」を始める。	
				3 探究型学習を導入した講義の改善	3 満足度調査を実施した講義数 4科目	3 満足度調査を実施した講義数 5科目(病害虫と雑草Ⅰ、果樹栽培論Ⅰ、先端農業機械論、植物生理、進路決定ゼミ) ・外部機関の協力を得て、「講義改善シート」を作成し、QRコードによる調査を実施した。	A	講義改善シート」による満足度調査を取りまとめ、講義改善の参考にする。講義改善などを継続し、学生の意欲を引き出す講義づくりを進める。	満足度調査などアンケートは経年で積み重ねていくと講義改善や学生募集に有効なデータとなる。
				4 スマート農業教育の推進	4 実習でスマート機器を活用する学生数 18名	4 実習でスマート機器を活用する学生数 21名 野菜:10名(アグリノート記録) 花き:2名(Arsproutのデータ閲覧) 落葉果樹:4名(ロボット型草刈機の利用) 肉用牛:5名(U-motionの記録閲覧・牛舎監視カメラの閲覧)	A	外部機関の協力を得、スマート農業機器も活用しながら、学生の意欲を引き出す取り組みを実施する。	
				5 デジタル機器を活用した学習環境の構築	5 デジタル機器を活用した学習環境の構築 ・「学内ポータル」「職員ポータル」の運用開始	5 デジタル機器を活用した学習環境の構築 ・「学内ポータル」「職員ポータル」の運用開始 ・「学内ポータル」「職員ポータル」の運用を開始した。 ・ポータル活用の説明会を、職員向け・学生向けに実施。 ・Formsを活用し、学生向け・職員向けアンケートを実施した。	A	職員向けアンケートで把握した改善業務を実現する。 学内 LAN」の方向性を決定する。	Formsを使ったアンケートは話すのが苦手な生徒には有効な手段となる。また、学生の変容を知り改善に活用できる。

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
5	職員のスキルアップ	・職員が授業や生活指導上の問題に効果的・効率的に対応できるようスキルアップのための取り組みが必要である。	研修への参加	1 各種研修への積極的な参加を呼び掛ける。	1 県内外で開催される研修への参加者数 9名 2 教育委員会の新任研修へ参加 3名	1 県内外で開催される研修への参加者数 14名 コーチング研修 4名 チームビルディング研修 6名 JGAP 指導員養成研修 1名 西日本ブロック部門別研修(畜産) 1名 西日本ブロック分紋別研修(果樹) 書面開催 中四国ブロック教務担当者会議(web) 1名 全国青年農業者育成研究会 1名 2 教育委員会の新任研修へ参加 3名	A	西日本ブロック研修など、農大間の情報交換や教育手法の向上に有意義であり、教育委員会の研修も含めて、積極的な研修参加を進めていく。	昨年度も意見にあった指導農業士と大学校職員との意見交換会を実施すること。